

environmental
環境教育
education



教育とは人をはぐくむすべてのこと、何も学問に限ったことではありません。私たちの住む地球を、「私たちの手で」汚してしまっことを学び、「私たちの手で」その環境を回復、保護することを学ぶことも、現代の教育に求められているといえます。そこで、今回の対談は、佐藤幸一教育長を囲んで、家庭、学校、地域が一体となって推進したい環境教育について話し合っていました。

環境に対する
思いやり、心配りを
身につける教育を。

対談 佐藤教育長を囲んで

自己紹介を教育長からお願いします。教育長の前に環境公害部長を務めました。通算で十二年間公害問題に取り組んできたのですが、最近の地球規模での汚染の問題を考える時、基本となるのは、まず身近な環境を見据えることだと思います。それぞれが「地球は大きいから自分の身の周りぐらいは大したことないんじゃないか」と物を捨て、汚水を流す。そういったことが積み重なって地球環境問題まで発展してきたのではないのでしょうか。だから身近な環境を考える場合に、まず子供にしっかりと環境に対する思いやり、心配りを身につけさせる必要があるのではないかと非常に感じていたわけです。そこで、環境教育を積極的に推進しようと、現在準備を進めている段階

米村 「井芹川を美しくする会」の会長をしています。している米村です。三年ほど前、川が年々汚れているなと思い友達に呼びかけて、最初は川の橋脚にひっかかっているゴミを掃除しました。その翌年には川沿いもきれいな方がいいなと思ってコスモスの種をまきました。直接まいたものでよくできませんでした。直接まいたものは苗づくりをして、花が咲くようになりました。川を美しくするというのは、水の問題が重要だからです。人間が生きていく上には水が最も重要だと思います。将来に悔いを残さないように、自分たちでできる小さなことから始めようとスタートしました。

山口 芦北町立丸米小学校でPTAの会計をしております山口です。児童数六十



牛島 一美さん

- ・熊本市在住、43歳
- ・熊本市立託麻原小学校教諭
- ・学校緑化で昭和60年文部大臣賞、62年内閣総理大臣賞を受賞した託麻原小学校に62年4月に赴任。現在も緑化活動や愛鳥活動などを推進、指導している。



山口 由紀子さん

- ・芦北郡芦北町在住、35歳
- ・芦北町立丸米小学校PTAで会計を務める。
- ・学校の活動、JRC活動で牛乳パックによるハガキづくりや廃油を利用した石鹸づくりなどを地域ぐるみで行っている。



米村 誠一さん

- ・熊本市在住、36歳。
- ・農業に従事する傍ら、3年前から井芹川の清掃や、川べりにコスモスを植えるなどの活動を婦人会や子供たちと一緒にしている。
- ・昨年度「井芹川を美しくする会」をつくり、現在会長を務めている。